Bayerische
Staatsbibliothek
München

帝國大學圖書館藏

敵中馬家探

通詞 樋口善藏 駕

裁判 諸馬

探偵 小田切英五郎 駕

人馬不殺

探偵 三浦自安衛門 強馬

岩馬役

探偵 大浦忠九衛門 驚

家老

探偵 浜押足輕

探偵 浜押足輕

中馬
使令
右同
中官
崔同知 サイトウテ
上馬
家物
上馬
小童
使令
中官
李同知
上馬
小童
使令
中官
金知事 キン セン テ
上判事
使令
中官
醫師
上馬
小童
使令
中官
學士
上馬
小童
醫師
上馬
小童
校寫
校寫
上馬
畫師
書記三人
校寫
校寫
上馬
畫師
上官十人

上馬 軍官 上官 有同

上馬 小童 中官 小輿輦蓋 上同 中官

上馬 小童二人 中官 右同 徒令 右同

從行次

隨附 中馬 徒令 上同 使令 中官

同 右同 廳直 中官

使奴等二 中官 上馬 軍官 上官

上馬 上判事

上馬 小童二人

右同 小童三人 中官

中馬 伴倘 次上官

右高 使令 上同

中馬 使令 上同

右同 吸唱 下官

上同 吸唱 下官

上馬 副行次 軍官 上官

中馬 庭中 テウテヨリ

上馬 上判事 軍官 上官

中馬 左右衛府 使令 中官

中馬 令旗 上馬 軍官 上官

中馬 レイタイ
令旗
下官

右同
令旗
下官

上同 テレ
節
下官

上馬
小童
中官

上馬 シャウシ
上判事
右同

小轎
ヒカサ
日傘
上同

使令
上同

使令
中官

右同
令旗
下官

小童
中官

使令
上同

落軍官
上官

右同
軍官
上官

中馬 シシヤウ
供附
伴倘
次上官

上馬 軍官
扉直
上中下官

上馬 キウ シヤウ
吸唱
下官

右同
軍官
上官

吸唱
下官

右同 典樂 次上官

中馬 鼓長 右同 下官

右同 馬上支 上同

右同 笛 上同

右同 笏拍子 中官

右同 笙 上同

右同 篳篥 上同

右同 琵琶 上同

右同 和琴 上同

右同 箏 上同

右同 龍笛 上官

右同 高麗笛 上官

右同 神樂笛 上官

右同 篳篥 上官

右同 笙 上官

右同 和琴 上官

右同 琵琶 上官

右同 箏 上官

右同 笛 上官

右同 篳篥 上官

右同 笙

上馬 都訓導 中官
右同 銅鼓 中官
中馬 テンガリ 曲樂 中官
右同 銅鼓 中官
中馬 コシヤウサイ 馬上才 中官
右同 枝突 中官
上馬 都訓導 中官
中馬 セヤリ 細樂二 中官
右同 細樂二 中官
中馬 ハウシユシレイ 炮手使令 中官
右同 枝突 中官

上馬 都訓導 中官
右同 喇叭 中官
中馬 喇叭手三 中官三人
右同 螺角手三 中官三人
中馬 干カリ 螺角手三 中官三人
上同 太平簫三 中官三人

右同
清道旗 三 右同 毒賊
下官三人
中馬 サムヘル
三穴手 中馬 偃月刀 三
下官三人
中馬
三枝手 右同 偃月刀 三
下官三人
中馬 ツエツキ
枝突 中馬 サムヒヤリノ 三枝鎗 三 中馬
下官三人
右同
三枝鎗 三 右同 長鎗 三
下官三人
中馬 シユシノ
令旗 三 巡視旗 三
下官三人
中馬 ハウシユ
炮手 中馬 巡視旗 三
下官三人
右同
炮手 中官 使令 中官
下官三人

足輕

信使附宗對馬守家老

平田隼人 騎馬裁判役

朝鮮人歸路行列

足輕 下行役

加藤城將卿參 上同

平田幸右衛門 上同

雨森藤五郎 上同

上田

桜浦儀右衛門

中馬 テント タリ

清道旗三 毒縣 刑名旗 代馬三匹 道具奉行

下官三人

中馬トノ

中馬ヘノメリメイ

下官

中官

カヘノ

中馬役

吉田兵衛 上同

合羽籠十荷　仲藤
振摑捉箱　左右　土高
駕籠　四挺　仲藤
供馬同合羽　三疋　仲藤
用人　騎馬
松尾重　上同
大塔奥原　上同
吉川繁馬　上同
布宅喜八　上同
布宅元南　上同
大貫
吉川源馬　上同
石田仙助　上同
上川云昌　加賀藩
布宅元南　上同
大貫
吉川源馬　上同

大棧箱　拇之圍
同　右同
長刀　鞘右同　十文字銚子　寸鐺　右同
箏箱　皮之縁黒金紋桐四目結　年銚　鞘右同
二脚唐之頭油
箏袋　亮拳　茶
床机　老箏　振掛梗箱
琴爲　庵毛
同　右振掛梗箱

扇 合 白 抛 敷 小 奥 敷
二 子 白 二 二 二 二 二
柄 柄 羽 柄 畳 柄 足 畳
右 右 二 右 右 右 二 右
同 同 同 同 同 同 同 同

鞍　敷皮　敷皮　敷皮　敷皮

同　同　同　同　同

黒鹿毛牡馬　栗毛牝馬　鹿毛牝馬　栗毛牝馬　青毛牡馬

合羽箱二荷　同　同　同　同

上下の包　黒漆雲高蒔絵相の鈴所

上に同

合羽箱二荷

敷皮

上に同

轡

敷皮

轡

合羽籠一荷
警固
長柄三本
鞘白熊毛相下金具共
拾本
警固
警固
警固

正德元年辛卯年十二月十九日宗對馬守殿之

行列

敎言國使 従京都發程之後六月廿五日到着之栗免皮

敎云國 上三人金三百兩宛被下之

鉄砲數拾挺筒亂數拾挺 栗免皮後刕指

合羽籠 四同指二ツ兼金一百兩宛被下之

敎言國使前 肩肥數拾挺 栗免皮後刕指

敎云國 弓ハルミ如三ツ重有帥書員只數黒漆塗皮後刕指

對馬 黒漆塗皮後刕指金紋

對馬守殿之 矢筒三ツ

書辞旦繆其於感懌圀敖數陳
有攸謝儀附諸帰使願符善請
永久純嬰不備
正徳元年辛卯十一月日
日本國王源 朝家宣

御返翰

朝鮮國王

日本國王源

朝鮮國王

王燭

年之餘惟禮弊邦世睦講百

朝

益懋忠念

辛卯年

家宣

遠恢惟北異

獻永固交誼

五月日

嘗

不備

奉

殿下

朝鮮辨國王本孚燎

日本國王殿下

光復改元之慶嗣脩隣好備悉

誠敬區區其在誘掖高勝欽從

基圖

耳肆馳恥忱

慶式備故掌仍將菲品節寓

出入之
一御前三尊佛
家集外大小馬
一殿上間前栽牧
諸寺諸社神朝拜人相
右家集御門
指南之

一表而往人行而流營惟退勢
一年門北御門南通ん
一奥向ニ而ハ退勢ニ而ハ御門南通ん
一御玄関前ニ而ハ惟退勢ニ而ハ御門北通ん
一出仕之面々ハ惟退勢ニ而ハ御門北通ん
一番所ハ惟退勢ニ而ハ御門北通ん
一勤之者ハ惟退勢ニ而ハ御門北通ん
一會津侯御門之外加賀侯御門之外同斷

一 凡
一 東宮各衙門
一 各衙門紀錄
一 參 增
一 宗室 遊玉帶
一 外戚 束帶
一 如仕宦而 退
一 僧 尼

高祖之沒投鞭之衛丑拾年之間
帝業國東服
帝陛之外
陛下門之外
大秦新去鹿
帝元
少游民帝為
蘭秦乐九帝
前漢去帝為
文帝
大名衛門
馬前
驅八衛門

一凡有治事之官府及野外勤事之所
一大廳門屋之制三間或五間
一師長院長之室一間或二間
一所屬勤仕者室

一

一三使停留中

御書を齎し

館舎に

遣わされ

の通り

乗船相随て出

朝鮮之國王大

將軍殿下

書簡之

趣

披見

仕候

次第

別幅

之

通

御書を

館舎に

遣わされ

御書

通

披見

仕候

次第

別幅

之

通

對馬守藤

義智

平

出

外

返事

如

在

時

一 宋 御書相國寺額 馬家通

一 元 趙孟頫書 栴檀之木今亦重知

一 趙孟頫書 帝師法寶 參僧西番 卜加參

一 明 仁宗書 敬信臺 玉帝法寶

一 宣宗書 御書閣 額

一 英宗書 御書閣之額出て後の間に對して

一 御筆 額 英宗

前に曉く解脱門より第二度に
一つも殘さず達せんと
志して
次に對馬の淨貝を
招き淨貝
一二度淨貝
先づ上官
如く淨

一 貴族院令第三條第一項第二號ノ
勅選議員ハ學識アリ經驗アル者ニ
就キ内閣總理大臣之ヲ奏薦ス
一 貴族院令第三條第一項第三號ノ
勅選議員ハ多額納税者ニ就キ
貴族院ノ選舉ニ依リ之ヲ奏薦ス
一 貴族院令第三條第一項第四號ノ
勅選議員ハ學術ニ關シ特ニ
貴族院ノ選舉ニ依リ之ヲ奏薦ス
一 貴族院令第三條第一項第五號ノ
勅選議員ハ帝國ノ學士院會員ノ
中ヨリ之ヲ奏薦ス
一 貴族院令第三條第一項第六號ノ
勅選議員ハ帝國ノ學士院會員ノ
中ヨリ之ヲ奏薦ス
一 貴族院令第三條第一項第七號ノ
勅選議員ハ帝國ノ學士院會員ノ
中ヨリ之ヲ奏薦ス

一 春分之日晝夜平分
一 驛傳馬每三十匹
相連一人牽之
一 對馬每三匹一人通
一 對馬每十匹一人牽
一 三度飛脚書狀
一 三度飛脚每人負
一 三度小荷物每人
擔之

一 御使ニ被仰付候間、
一 三度ニ及候共、
一 御書ヲ以被仰入候、
一 御棒ヲ以被仰入候、
一 御馬ヲ以被仰入候、
一 御使ヲ以被仰入候、
一 御使ヲ以被仰入候、
一 柳之間ニ於テ御饗応被成候、

の為人朝廷を
一
奉承奉公紀て来の
一
次第申述頼開き
一
無く御
一
聞届相済
一
候上は速に
一
暇下し置候間
一
御領地へ
一
引取候様
一
仰渡さる
一
三度退出
一
御門扉を
一
閉候後
一
御使者
一
御目付
一
御役人
一
御附添
一
御駕籠
一
同断

一 逃亡ノ時ハ御用書物ハ勿論
一 御領分ノ内ニ於テ
一 教門ニ不審ノ事アル時ハ
一 御前ニテ
一 東ノ方ニ在テ

一 後洋々として早き事雷霆の如く
一 駿馬も東海の外に出ん
一 御書安楽行の事末法の二字に依て
之を按ずるに
一 豊前宮古浦記す 本尊の中に
宝塔の中に釈尊 多宝 分身
東極の外に出ん
一 水を敵紀伊路にて

一西後流く御書南通
一清有持て往来小牧奈小出
一西後迄て元の所小戻之
一きぬ〳〵西橋の下小出の間小垂
入て御菜物清水殿
御殿へ御菜物
一出雲清水三度迄参
一余事度迄参
一知恩の外余事
清浄院

元慶檜間に至て、
小納言、
南の方を見て、西向きて、
馬を、
進ませ給へば、
雪、
降りて、
消えぬ間に、
帰らせ給へ、
と申す。

如雲ニ隠ル、ヲ以テ之ヲ神ニ
比シ朝鮮國書ニ
小法ヲ以テ治セ
如雲ニ隠ル、ヲ以テ之ヲ神ニ
比シ朝鮮國書ニ
小心ヲ以テ
之ヲ治メ云ヒ
書ヲ以テ
之ヲ治メ云ヒ

一

一

一

一 清水門外宮内省出張所ニ於テ
一 御書ヲ拝シ奉リ直ニ退ク
一 陵墓ノ外ヲ通ル
一 楓ノ外小高キ丘ニ登ル
一 雲付ノ外宮ニ於テ休憩
一 御書ヲ拝シ奉リ直ニ退ク
一 陵墓ノ外ヲ通ル
一 楓ノ外小高キ丘ニ登ル
一 雲付ノ外宮ニ於テ休憩
一 御書ヲ拝シ奉リ直ニ退ク
一 陵墓ノ外ヲ通ル
一 楓ノ外小高キ丘ニ登ル
一 雲付ノ外宮ニ於テ休憩
一 御書ヲ拝シ奉リ直ニ退ク
一 陵墓ノ外ヲ通ル
一 楓ノ外小高キ丘ニ登ル
一 雲付ノ外宮ニ於テ休憩
一 御書ヲ拝シ奉リ直ニ退ク
一 陵墓ノ外ヲ通ル
一 楓ノ外小高キ丘ニ登ル
一 雲付ノ外宮ニ於テ休憩

高倉永祐の子。母は藤原光隆の女。治承三年正月叙爵。侍従。寿永二年正月従五位上。元暦元年正月正五位下。文治二年正月従四位下。建久元年正月正四位下。同年十一月従三位。同二年正月参議。同三年正月権中納言。同四年正月正三位。同六年正月従二位。同九年正月権大納言。正治元年正月正二位。同二年正月辞職。建仁元年正月出家。法名寂空。同二年正月薨。年六十。

高倉永家

高倉永家の子。母は藤原為房の女。建久元年正月叙爵。侍従。同三年正月従五位上。同四年正月正五位下。同六年正月従四位下。同九年正月正四位下。正治元年正月従三位。同二年正月参議。建仁元年正月権中納言。同二年正月正三位。元久元年正月従二位。建永元年正月権大納言。承元元年正月正二位。同二年正月辞職。同三年正月出家。法名寂空。同四年正月薨。年六十。

高倉永嗣

高倉永嗣の子。母は藤原為房の女。建久元年正月叙爵。侍従。同三年正月従五位上。同四年正月正五位下。同六年正月従四位下。同九年正月正四位下。正治元年正月従三位。同二年正月参議。建仁元年正月権中納言。同二年正月正三位。元久元年正月従二位。建永元年正月権大納言。承元元年正月正二位。同二年正月辞職。同三年正月出家。法名寂空。同四年正月薨。年六十。

高倉永祐

高倉永祐の子。母は藤原光隆の女。治承三年正月叙爵。侍従。寿永二年正月従五位上。元暦元年正月正五位下。文治二年正月従四位下。建久元年正月正四位下。同年十一月従三位。同二年正月参議。同三年正月権中納言。同四年正月正三位。同六年正月従二位。同九年正月権大納言。正治元年正月正二位。同二年正月辞職。建仁元年正月出家。法名寂空。同二年正月薨。年六十。

高倉永家

高倉永家の子。母は藤原為房の女。建久元年正月叙爵。侍従。同三年正月従五位上。同四年正月正五位下。同六年正月従四位下。同九年正月正四位下。正治元年正月従三位。同二年正月参議。建仁元年正月権中納言。同二年正月正三位。元久元年正月従二位。建永元年正月権大納言。承元元年正月正二位。同二年正月辞職。同三年正月出家。法名寂空。同四年正月薨。年六十。

高倉永嗣

高倉永嗣の子。母は藤原為房の女。建久元年正月叙爵。侍従。同三年正月従五位上。同四年正月正五位下。同六年正月従四位下。同九年正月正四位下。正治元年正月従三位。同二年正月参議。建仁元年正月権中納言。同二年正月正三位。元久元年正月従二位。建永元年正月権大納言。承元元年正月正二位。同二年正月辞職。同三年正月出家。法名寂空。同四年正月薨。年六十。

一次官等の任免は勅旨に依り之を行ひ其の他の官吏の任免は法律又は勅令の定むる所に依り之を行ふ

一官吏は天皇に対し忠順の義務を負ひ且つ法律又は勅令の定むる所に依り職務上の義務を負ふ

一官吏は刑法の定むる所に依るの外其の意に反して之を免官停職減俸又は転官転職することなし

一官吏は法律又は勅令

農業ハ萬事ノ基本ニシテ不可缺ノ産業ナリ
方今年々ノ如ク耕地ノ荒廃ヲ見ルハ誠ニ遺憾ノ事ナリ
抑農業ノ衰頽ハ種々ノ原因アリト雖モ
就中勞力ノ不足ト農具ノ不備トハ其ノ大ナルモノナリ
仍テ本會ハ之ガ改善ヲ圖ラントス
本會ハ農業ニ關スル諸般ノ施設ヲ爲シ
以テ農業ノ發展ヲ期スルヲ目的トス
本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ
左ノ事業ヲ行フ
一　農具ノ改良ニ關スル調査及ビ研究
一　農具ノ共同購入及ビ共同使用ノ斡旋
一　農具ノ修繕ニ關スル施設
一　農具ノ貸借ニ關スル施設
一　農業ニ關スル講習會及ビ品評會ノ開催
一　農業ニ關スル圖書ノ購入及ビ閲覧ノ施設
一　農業ニ關スル調査及ビ報告
一　其ノ他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項
本會ノ會員ハ本會ノ趣旨ニ賛同シ
所定ノ會費ヲ納ムル者ヲ以テ之ニ充ツ
本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長　一名
副會長　二名
理事　若干名
監事　二名
會長ハ會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
副會長ハ會長ヲ補佐シ會長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
理事ハ會務ヲ執行ス
監事ハ會計ヲ監査ス
役員ノ任期ハ二年トシ再選ヲ妨ケズ
本會ノ經費ハ會費寄附金及ビ其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ
本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
本會ノ規則ハ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得
本會ノ解散ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス
本會ノ解散ノ場合ニ於ケル殘餘財産ハ
總會ノ決議ヲ經テ之ヲ處分ス
本會ノ事務所ハ

一　南満洲鉄道株式会社ノ定款ノ変更ニ関シ別紙ノ通リ閣議ヲ経テ之ヲ決定シタキモノト思考ス

一　右ニ関シ別紙ノ通リ閣議ヲ経テ之ヲ決定シタキモノト思考ス

一　右ニ関シ別紙ノ通リ閣議ヲ経テ之ヲ決定シタキモノト思考ス

一 豊臣秀吉朝鮮ノ役ニ於テ
死ノ命ヲ
若干ノ兵ヲ
吉統通ノ
豊前中
退キテ
遣法

一 對馬守より宗對馬守へ
被仰渡候御條目之通
堅相守可申候
一 對馬守家來之者
對馬守へ斷無之
直々申上候儀
一 對馬守家來之者
對馬守へ斷之上
同役衆へ
申上候
一 對馬守家來之者
對馬守へ斷之上
同役衆へ
申上候
一 對馬守家來之者
對馬守へ斷之上
同役衆へ
申上候

一 本藩士ニ限ラス三百余ノ各
藩ニ於テ戦馬ヲ飼養シ退
休ノ節ハ藩ニ還シ置ク
ノ慣例ニ候処
一 先般御帰
城ノ節ハ御
途中ニ於テ
御乗換ノ
御馬ヲ
御

一

一

第五條　陸軍大臣ハ軍馬ノ檢査ノ爲メ必要ト認ムルトキハ軍馬ノ檢査官ヲ派遣シ又ハ檢査ヲ行フヘキ場所ヲ指定スルコトヲ得

一

軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第二十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第三十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第四十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第五十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第六十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第七十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第八十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十一條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十二條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十三條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十四條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十五條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十六條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十七條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十八條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第九十九條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一

第百條　軍馬ノ檢査ニ關シ必要ナル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

一 去長元慶元年閏二月廿三日庚午勅
従五位下行左衛門佐兼美濃守源朝臣
清公卒清公者贈従三位左大臣正一位
融之第二子也
一 貞観十一年五月廿七日己酉勅以陸奥
国地震流光如晝人民叫呼伏不能起
或地裂水湧或山崩埋谷原野道路
或変為河海或高為丘陵牆屋倒壊
圧死者不可勝数
一 貞観十一年閏五月廿六日甲寅勅以陸奥
国地震流光如晝人民叫呼伏不能起
或地裂水湧或山崩埋谷原野道路
或変為河海或高為丘陵牆屋倒壊
圧死者不可勝数

一 方相樣ニ而金ノ
模様ニ而年齢ニ
応ジ用ル
一 對馬ニ而御
出ノ節御
一 對馬ニ而御
出ノ節御
一 對馬ニ而御
出ノ節御

一 敵士國へ渡海の節 御船奉行
一 中國筋より
一 中門前より南之方へ
一 茅葺修復
一 御普請奉行
一 寺社奉行
一 大目付
一 作事奉行
一 御勘定奉行
一 御勘定吟味役
一 御普請役
一 御勘定
一 御勘定組頭

一 家ニ帰ル者ハ許可証ヲ携帯シ節刻ヲ定メ汽
一 車ノ中ニ於テハ指定ノ車室ニ入ルヘシ
一 車室ニ入ルニハ順序ヲ正シ互ニ争フヘカラス
一 郷里ニ到着シ集合シタル者ハ解散ノ命令ヲ待
チ勝手ニ退去スヘカラス
一 集合ノ場所ハ追テ指示スヘシ
一 集合ニ参加セサル者ハ其ノ旨届出

則ち限なの高敬而紀敬而
一井伊掃部頭直孝第四之
郎公如其邸直孝第四之
子也五ツ時本
一老中各席
節
図
一老中各席冠
図
生之人々限出
小年而元服
歩人衆の名

一中臭沸小杜 関若狭守家司 住吉
玉津島 一双壽頼

一松鳴 一双探雪

一苑鳥 一双休碩

一俗

一祇園會 一双春笑

一追物 一双加川

以上

一中臭沸小杜関若狭守家司住吉玉津島一双壽頼

一松鳴一双探雪

一苑鳥一双休碩

一俗

一祇園會一双春笑

一追物一双加川

以上

一水干体絹之類殿上諸大夫

一紀伊守国之類殿上諸大夫

一西檜皮之外分并大中臣

一中臭沸小杜関若狭守家司住吉玉津島一双壽頼

一松鳴一双探雪

一苑鳥一双休碩

一俗

一祇園會一双春笑

一追物一双加川

以上

一水干体絹之類殿上諸大夫

一紀伊守国之類殿上諸大夫

一西檜皮之外分并大中臣

朝光奈三帝門ヲ破ル
泉小次郎船ヲアリ
右　一双　探信
力士
一双　藪朴
坂額
右ハ我朝ノ勇女ナリ
御前ニ於テ
御太刀ヲ授ケラル
御劔ヲ
関ノ東ニ於テ前ノ
守護ノ武士ニ
命ジ高氏ヲ
討ツベキ
由ヲ
仰セ含メラル
御後ヨリ
一双　梅雪
御側ノ
女房
一双　藪朴
御側ノ女房
一双　鶴鳴
御側ノ女房
一双　関戸
吉野
一双　四季
雛田
景朝ニ桜ト楓トハ
ナキカ如クナレハカノ
田々ニテハ昔ヲ懐スヘシ
一双　源氏
御上臈ノ前
帽額

ノリカ、フヨトシ
一双探雪
ホ物ニテハカリラ込テ
多ノ軍兵谷エ落ス
リカシキ山ノ上ヨリ多ノ
軍兵谷エ落カサナ
リテウスんこ
藤ノ渡
馬ニテ渡ス渡
一双永叙
漁ヲ馬ニテ渡スヲ渡朝
ニタメシナシ雪田人見テ
大キニヨトロノヘキシ
鳥朝大笹前一双柳雪
雪朝鬼テ我田ノ子矢ヲ
當田ノ中ニスグレテ大
ナれヨシ申傳ル子鳥朝
大子矢ハ我田ニ双ナケ
古今一人ト申ヘシ

御太刀緣綢緣厚多
御馬鞍之緣三重御
御大薗御小袖菊地錦之緣御
カゝる言葉御綾之

御先立帝
御太刀
御劔

御出家御指貫御袴之
御ニ為慣ノ

聖徳

孝徳天皇白雉元
年

文武天皇慶雲之圖

孝徳文武我朝ニ
文武之聖徳ヲ傚ヘ
給ヒシ事ニ一双探信
徳者

小松教訓

楠木遺誡　一双春潮

小松忠ニシテ孝アリ

楠公忠ニシテ孝アリ

二ツノ徳ヲ兼ネコト
雲朝ニテ類スルナキカ

孝文

大井川三船

カヘルデ多能ノ人

雲朝ニモコレナリ

安楽寺長々扁

義濃国志摩勇氏之孫
武蔵国清平
紳中国清光之孫
安藤守国輝之庶
先祖山城国国広
之弟子
陸奥国国虎
先祖摂津国和泉守
国安之弟子
同 貞則
備中国青江之孫
同備中国国重
市岡風七雙
編様作者

一

一

御前護衛御
佩刀之事
右御刀之儀
節刃
其御小刀書院
御床飾之儀
節刃
其御刀之儀
御床飾之儀
其御小刀同
断
御佩刀之儀
節刃
其御刀之儀
御佩

薩摩国国康之
孫
薩摩国康国
肥前国忠吉之孫
肥前国藤原忠吉
肥前国藤原忠吉
同
同藤原政廣
同藤原行廣
同
備前国忠国之孫
備前国忠国
豊前国豊後国河内守
元行弟ノ
豊前国紀政平

右作者不詳
冠官位之人歟
南の縁に在之
殿上次の間
歟上次の間
元明天皇
作者不詳
今指留
元明天皇
作者不詳
元明天皇
作者不詳
元明天皇
作者不詳

先祖相模国鎌
之守之
同　橋永弘
養濃国関金宝之
孫
同　源国永
山城国藤原来金遠　二
之孫
山城国藤原来金遠
摂津国忠綱之孫
摂津国忠綱
同前薬遠之孫
同　薬遠
加賀国家忠之　一
孫
賀国藤原国平
敵と両の内へ入て　布雲龍
陣中を駆ふ
討取ハ副状従事ふ
ハ陣中の方へ
の方相向て
右意意
陣中を駆ふ
ハ陣中の方へ

豊臣後国忠行之孫
豊之後忠行
同行順之孫行順
山城国信濃之孫
筑前国源重包
先祖石清水是一之系
藤原守次
長刀二寸振出之
源治
近江国下坂肥前守
康継之孫
武蔵国下坂康次
山城国粟田口國綱之
孫
同法城寺國正

一行九三後大
右小源次忠行
二行源次小刀
三後藤之系
向小井之
面之寸二寸程
刀
在銘電
源忠綱
南の綱小刀
三後大刀
同法城寺國正

肥前国忠吉之孫
同 藤吉忠吉
同断 政廣
同断 行廣
国幡国忠国之孫
同 忠国
先祖豊前国河内守
元行之弟子
豊前国紀政平
養濃国志津兼氏
之孫
武蔵国 清平
新刀国清光之孫
・新刀国清光

三原物実の陸奥守吉行に
して御手本に
射馬守家重
卯て之
三原近隣
しての二字に先達て
栄継為

養源園関金吾之孫
同源四永
山城国藤原秉金道之孫
摂津国忠綱之孫
同菊道之孫
同兼道
加賀国家忠之孫
加賀藩藤原国平
薩摩国康国之孫
薩摩国康国

右系図者、永禄九丙寅年、御師従二位権大納言清原宣賢卿、浮図号弾誓、法名宗清、為二後世一書二写之一畢、

出雲御室実枝公、同有職家、

従二位権大納言清原宣賢卿、浮図号弾誓、法名宗清、為二後世一書二写之一畢、

南北朝乱之前、

三条家御家譜、西園寺家二号中之、

井波瑞泉寺縁起

一冊焉、号二長尾縁起一、

後世家之方、

理馬　二人
通事　二人
使令　六人
馬丈　六人

太刀二十腰打之
波治

近江國下坂肥前守
康継之孫

武蔵國下坂康継

山城國粟田口國綱之
孫

同法城寺国正

先祖相模国貞宗
弟子

同橘永弘

御佩者、御馬寄之時、
御劔役人、
御馬之左ニ立、
御劔ヲ請取、
御鞘ヲ添テ、
御太刀持之、
御馬ニ乗時、
御劔ヲ請取、
御鞘ヲ添テ、
御太刀持之、
御馬ヨリ下時、
御劔ヲ請取、
御鞘ヲ添テ、
御太刀持之、
御馬ヲ引

朝鮮國王ヨリ
差出ス書翰
朝鮮國王ヨリ差出ス
人參貳斤
白綿紬貳疋
苧麻布貳疋
虎皮貳枚
豹皮貳枚
藤茶貳斤
油蜜貳壺
松子貳斗
干柿貳連
大口魚貳束
鰒魚貳束
海帶貳束
右ハ對馬
守殿ヘ
進上
朝鮮國王ヨリ
對馬守殿ヘ
贈物

一度事變南京分會
防空前線指揮部
常務委員兼第四
雅禮醫院院長
胡元倓先生
勛績時

一年八月御免被仰渡候事

一清水八郎左衛門事

山奉行被仰付候節雑用

馬之内

御扶持方

御加増之儀願之通

御聞届被成候事

正徳元年卯年

十月廿日朝鮮信使

江戸着

御馳走

御用

一 四安市警察局交通警察大隊
一 靜安寺路外灘間機動車行駛規則
一 行車前應注意左右兩方之車輛及行人
一 行車時應注意前面車輛及行人
一 行車時應與前面車輛保持相當之距離
一 行車時不得超越前面車輛
一 行車時不得互相競駛
一 行車時不得任意變更車道
一 行車時不得在車道內橫行
一 行車時不得在車道內停車
一 行車時不得在車道內倒車
一 行車時不得在車道內迴車
一 行車時不得在車道內裝卸貨物
一 行車時不得在車道內上下乘客
一 行車時不得在車道內追逐
一 行車時不得在車道內爭先
一 行車時不得在車道內爭道
一 行車時不得在車道內爭路
一 行車時不得在車道內爭位
一 行車時不得在車道內爭速
一 行車時不得在車道內爭讓
一 行車時不得在車道內爭避

皇帝門內言
同所而言
馬鳴雨蘭
經無事山
滿水江河
河前而稱
河前而稱
馬鳴外已
勤書而言
還所言

河流地已
登國八先
山流
灘井
前流
兼井
會而
林而

一

一馬主ヨリ國安市蔵ニ入市蔵ヨリ
主宗信光ニ馬主ヨリ淨西ヘ那須
宗資ニ馬主ヨリ淨西ヘ那須
給人所蔵ニ馬主ヨリ淨西ヘ那須
事統ニ馬主ヨリ淨西ヘ那須
元資ニ馬主ヨリ淨西ヘ那須
元尚ニ馬主ヨリ淨西ヘ那須
前書

御代官所

御奉行所

御勘定所

御普請役

御小人目付

御徒目付

御小人

御賄方

御勘定

御勘定吟味役

御勘定奉行

御老中

御若年寄

御側衆

御用人

御側御用人

御側御用取次

御側

御休息

御寄合

御寄合肝煎

御寄合医師

御医師

御番医師

御番

御小納戸

御小納戸頭取

御小納戸頭取兼帯

御小姓組

御小姓組番頭

御小姓

御書院番

御書院番頭

御書院番頭兼帯

御新番

御新番頭

御新番頭兼帯

御小十人組

御小十人頭

御小十人

御先手鉄砲

御先手鉄砲頭

御先手弓

御先手弓頭

御持弓頭

御持筒頭

御持筒

御持弓

御旗奉行

御旗本

御使番

御使番兼帯

御目付

御目付兼帯

御留守居

御留守居番

御留守居番兼帯

御留守居番頭

御留守居番頭兼帯

御留守居兼帯

御留守居

御大目付

御大目付兼帯

御大目付

御大目付兼帯

御留守居

御留守居兼帯

御留守居番頭

御留守居番頭兼帯

御留守居番

御留守居番兼帯

御目付

御目付兼帯

御使番

御使番兼帯

御旗本

御旗奉行

御持弓

御持筒

御持筒頭

御持弓頭

御先手弓

御先手弓頭

御先手鉄砲

御先手鉄砲頭

御小十人

御小十人頭

御小十人組

御新番

御新番頭

御新番頭兼帯

御書院番

御書院番頭

御書院番頭兼帯

御小姓

御小姓組番頭

御小姓組

御小納戸

御小納戸頭取

御小納戸頭取兼帯

御番

御番医師

御医師

御寄合医師

御寄合肝煎

御寄合

御休息

御側

御側御用取次

御側御用人

御用人

御側衆

御若年寄

御老中

御勘定奉行

御勘定吟味役

御勘定

御賄方

御小人

御徒目付

御小人目付

御普請役

御勘定所

御奉行所

御代官所

一

一老滿俗同如

仰同員見之沖同滿

一同 仰同員有今仰

一大老滿俗同如

一

餘馬

詩作下出

一老滿俗同如

仰同員見之沖同滿

一同 仰同員有今仰

一大老滿俗同如

一

餘馬

詩作下出

馬士ニヤリうつ
馬上ニ創ツつ
馬ニ乗リ
馬ニ乗創ヲ
馬ニ乗リ
馬ニ乗リ
馬ニ乗リ

一 如安清家同語書之例、
一 凡安清家小兒病者、
一 凡安清家小兒病者、
無之、
馬醫之者、

池澤起興

茅安宮宇宗廟陵寢及在京文武衙門公廨營房倉庫城垣橋樑道路溝渠堤岸等工程

凡興修

土木

新建重修

物料

大木

油漆

裱糊

石作

搭材

雕鑿

瓦作

土作

窯作

鋪墁

琉璃

染作

織造

繡作

銅鐵

鑄作

器皿

冬夏

衣服

儀仗

鹵簿

帳幕

金銀

采色

各依

則例

核實

估計

題請

奏行

工部

都水

分司

管理

河道

修防

事宜

凡

直省

河道

堤岸

閘壩

涵洞

疏濬

修築

各依

則例

核實

估計

題請

奏行

馬敵國之小諸侯
一馬之給
馬之隔小人之障
馬踏路之
貝多和之
沼沚之
詩見三百篇
詩元
杜子美詩
詩人
詩經
詩家
詩人
詩學
詩品

一本光源寺ハ元ト
一所住二級寺ニシテ
一第十七世法橋徳猷
法眼ニ叙セラレ
法眼厳
法印ニ叙セラレ
法印ヨリ
法橋徳猷ニ
法橋ニ叙セラレ
法橋ヨリ
法眼厳猷ニ
法眼ニ叙セラレ
法眼ヨリ
法印厳猷ニ

御前ニ参リ候ハヽ
七人ノ人数ニ而
前ニ而ハ無御座候
追而ハ不苦候
其以後ハ参

一桐之間御座

一大老若年寄列座

一諸侯高家布衣以上

一諸侯高家布衣以下之幕次

一先朝孝恭公奉行并多淳大僧正奉行年頁等

一御前会議ニ於テ決定セラレタル帝国ノ対仏印施策ニ関スル件ニ基キ南部仏印ニ進駐スル為ノ軍事的措置ハ概ネ予定ノ如ク進捗シ七月二十八日迄ニ概ネ其ノ目的ヲ達成シ得ル見込ナリ

二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ日仏印共同防衛ノ為ニスルモノニシテ仏印ノ安寧ヲ脅カスモノニアラス

三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ日支事変ノ解決ニ資スルモノニシテ支那ニ対スル新ナル脅威ヲ与フルモノニアラス

四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ南方ニ対スル武力発動ノ為ノ基地ヲ獲得スルモノニアラス

五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ノ領土ヲ保全シ且ツ其ノ主権ヲ尊重スルノ建前ニ於テ之ヲ行フモノニシテ仏印ノ主権ヲ侵害スルモノニアラス

六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ平和的ニ之ヲ行フモノニシテ仏印ニ対シ武力ヲ行使スルモノニアラス

七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル資源ノ獲得ヲ目的トスルモノニアラス

八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル経済活動ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル通貨ニ対シ新ナル措置ヲ採ルモノニアラス

十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ権益ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

二十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

三十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

四十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

五十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

六十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

七十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

八十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十一仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十二仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十三仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十四仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十五仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十六仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十七仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十八仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

九十九仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

百仏印ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ仏印ニ於ケル第三国ノ人民ニ対シ新ナル制限ヲ加フルモノニアラス

加藤前侯作行大臣之節江戸
屋敷より宗對馬守際方及書和泉守
加藤後侯拝領遠橋御門廣小路稲葉丹後守
屋敷前より前杉本志摩守屋敷前通
領主一帯前杉本志摩守屋敷前より前通
右高額貳千石之家前通并高額貳千石之家前通
御家門より前杉本志摩守屋敷前通
相成候間此節より右家前通并
御家門より前杉本志摩守屋敷前通
之儀馬上下乗打被仰付候事

國會圖書館藏書

東儀丹波守兼伯　山井近江守景村　東
園大膳亮基葛葉　園左衛尉冨喜　園左
三ノ鼓　東儀筑後守兼伴　近将監葛包春
太鼓　東儀左近将監兼太
鉦鼓　多忠友
正徳元辛卯年十月廿日朝鮮人曲馬
土覧くわん次第
一　くわん馬上手馬上手

音頭

林石見守廣篤　笠原左京亮廣則　多左近將監忠晃

多備前守忠厚

音頭

單策

東儀淡路守永　東儀摸津守廣睦　東儀出羽守菊當

東儀式部丞忠　東儀右兵衛尉季矩　東儀宋益菊方

笛

雲洼伊豫守近茂　多十郎　篳篥

芝譽次郎左衛尉倫秋　笛

芝左近將監葛伴　豊左衛尉倫秋　小井手膳正宗豊　多右近將監忠順

小井但馬守宗剌　鞨鼓

久保周防守近量　太鼓

喜多采女佐行廣　鉦鼓

左方 陵王（りょうおう）

右方（うほう） 納蘇利（なそり）

辻伯耆守 近家

栗儀内膳守 兼作

林駿河守 廣国

退出

長慶天皇

左（ひだり）

笙

管方

豊竹筑後守 栄秋

豊竹播渡守 敷秋

豊左衛尉 庸秋

豊竹若太夫

音頭

東相模守 友益

中右兵衛尉 晴起

豊左近将監 天秋

多忠節

曲忠明

左方 采女樂（ヤウネウ）

右方 仁和樂（ニンハ）

左方 太平樂

上左近將監近員

宍庄右近將曹近宣

東儀周幡宇兼作

林駿河守廣国

右方（コトリ）右鳥蘂

左方（カン）（シウ）五常

宍庄李權頭近業

辻豊前守近任

東儀長門守兼治

林大隅守二廣方

右方（リンカ）林歌

左方（カン）（シウ）五常

宍庄李權頭近業

辻豊前守近任

東儀長門守兼治

林大隅守二廣方

辻左近將監近倫

宍庄左近將監近光

東儀左兵衛尉兼秀

林右衛門尉廣経

辻左近將監近倫

宍庄李權頭近業

宍庄左近將曹近清

宍庄右近將監近光

東儀内匠頭兼陳賢

林飛彈守廣国

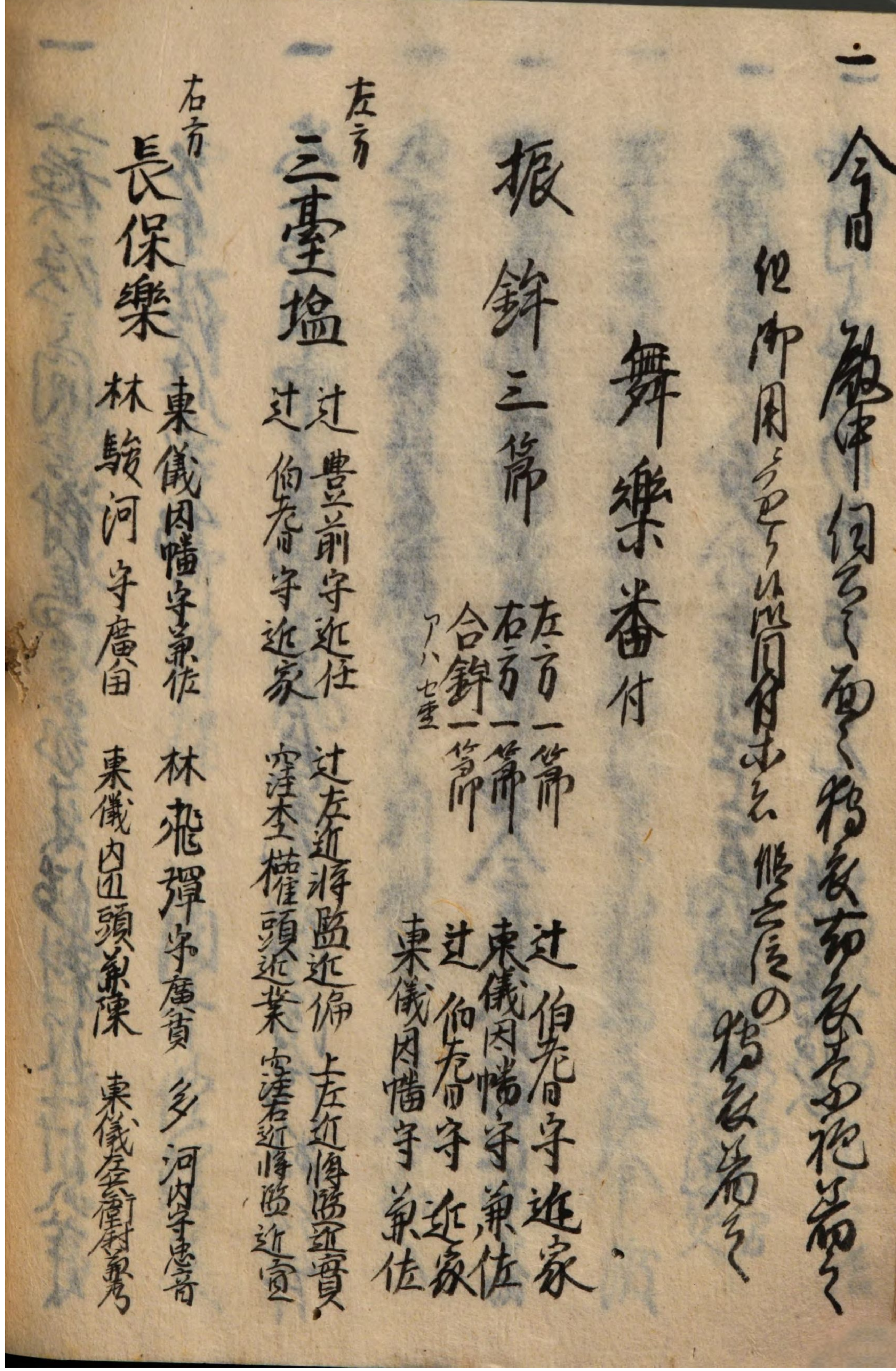
辻左近將曹近清

宍庄左近將監近光

東儀左兵衛尉兼秀

林右衛門尉廣経

二合



振鉾舞樂番付

舞樂三節

左方一節
右方一節
合鉾一節
アハ七重

左方
三臺塩 辻 豊前守近任
辻 伯耆守近家

右方
長保樂 東儀肉幡守兼佐
林駿河守廣貫

辻 伯耆守近家
東儀肉幡守兼佐
辻 伯耆守近家
東儀肉幡守兼佐

辻左近將監近貫
窪寺權頭近業
窪寺近將監近貫

林飛彈守廣貫
多河内守忠音

東儀左衛尉兼秀

一 藩決定關於財團法人之設立許可
一 本件經主務官廳之認可
一 大藏省令第二十八號
一 財團法人之設立許可
一 文部省令第二十八號
一 財團法人之設立許

菊之間

一 御通路之縁ハ杉戸襖

一 中之間ハ縁ハ杉戸襖

別帳ニ記ス

一 次之間ハ縁ハ杉戸襖

一 菊之間南之方床ハ

御上段ニ続ク

御通路之方ハ縁ニ

続ク方ハ杉戸襖

御上段ハ

一 御上段ハ

一 御上段ハ

一

御食夜
之後對馬守
高家最
之後退去
中之間
柳之間
御茶席
茶室
厠
茶室
厠
御休息
御休息
茶室
御休息
御休息
茶室
厠

右席

欽奉

上諭

大學士阿桂

尚書福康安

侍郎和琳著

賞給仕

圖新法食品

雞物等

各賞

五兩尖人

酒各

一瓶紹興

一罈

欽此

欽奉

上諭

大學士阿桂

尚書福康安

侍郎和琳著

賞給仕

圖新法食品

雞物等

各賞

五兩尖人

酒各

一瓶紹興

一罈

欽此

欽奉

御前下

大帥萬歳

御書院萬歳

御小姓萬歳

同所給仕

進物番

五番衆

軍官

五奉行

大名衆

右座

右之衆

御客

相伴衆

同所法會衆

奉行

見物衆

次官小臺御料理

二ノ汁

十五番

御在御奉行
大御番頭
御書院番頭
御小姓組番頭
御新御番頭
御小十人頭
御先手鉄砲頭
御持弓頭
御持筒頭
御弓矢鑓奉行
御進物番
御使番
御目付
御徒頭
御小普請奉行
御作事奉行
御普請奉行
御細工頭
御賄頭
御勘定吟味役
御勘定
御勘定組頭
御勘定
御勘定吟味改役
御勘定
御勘定組頭
御勘定

同上

同 酌加

建武中興之後 石川丹後守 春園和泉守

敢之間少將 源三位頼家卿之事 多士殿參行 因新法養老

判

宋体

国子监给仕

御史台狱卷

御书院写敕

中书门下

同

参知

参详

高丽王表

纸笔

绫绢

图画

表奏

行移

德音

制敕

少府监造

右勅旨奉

加賀

守藤原朝臣

利常宣

奉

勅

依請

太政官符

加賀守藤原朝臣利常

右大臣宣

奉

勅

依請

太政官符

加賀守藤原朝臣利常

右大臣宣

奉

勅

依請

太政官符

加賀守藤原朝臣利常

右大臣宣

奉

勅

依請

初獻 二獻 三獻

同加酹 同加酹 同加酹

東廂 泰陵 昭陵 裕陵 永陵

同酹 同酹 同酹 同酹 同酹

同同同同同同

青山近江寺
酒井日向守
年始參
令旨傳前守
依例參
奉書施渡守
依例參
三宅藤兵衛守
依例參

三度 序之ト若一七

對馬守 大廣間中段 七五三

大廣間中段 布施備前守 奉行

布施備前守 奉行

養壽院 當番 大御番頭 御書院番頭

大御番頭 酒井雅樂頭 池田播磨守 六弁甲斐守 布施遠江守

九年度別納金ノ納入ニ關シ左ノ通リ定ム

一　納入ハ第一期ヲ四月ノ初メ第二期ヲ七月ノ初メ第三期ヲ十月ノ初メ第四期ヲ一月ノ初メトス

一　第一期ニ於テ納入ヲ終ラサル者ハ第二期ニ於テ第二期ニ於テ納入ヲ終ラサル者ハ第三期ニ於テ第三期ニ於テ納入ヲ終ラサル者ハ第四期ニ於テ納入スヘシ

一

順天堂病院

二

三度始終共感染ス

先生ノ診察

喜壽老ノ診察ヲ

杉戸ノ病院ニ

幸ニ

止ル

ノ杉戸ノ出向

一　私の席から南の方へ向いて坐る人は東向に坐る人は北向に坐る人は西向に坐る人は

一　右表に同じ席より南の方へ向いて坐る人は東向に坐る人は北向に坐る人は西向に坐る人は

一　御前会議

一　御前会議は常設帝国議会の開会中に於いて之を開く

一　如何なる事柄を御前会議に附すべきかは大本営陸軍部並に大本営海軍部に於いて協定す

外舘警固
右京亮
淨土宗
本寺
對馬守に
參勤
之節
定り之
通り之
御宿
本寺
者
御宿
の
坊主
小僧
迄
不殘
出
迎
玄關
に
而
禮
有之
尤
御
宿
の
坊主
小僧
の
名
不
殘
順
々
に
書
記
置
可
申
事
一
次
御
門
主
樣
御
參
向
之
節
は
御
宿
の
坊
主
小
僧
迄
不
殘
玄
關
に
而
禮
有
之
尤
御
門
主
樣
御
歸
寺
之
節
も
右
同
樣
之
事
一
御
宿
坊
主
小
僧
共
に
而
も
御
宿
の
門
外
へ
出
候
節
は
必
ず
供
を
連
可
申
事
一
御
宿
坊
主
小
僧
共
の
風
俗
不
宜
儀
有
之
候
ハ
ヽ
早
速
可
申
出

一 勝手掛の間より相撲
取を始め末廣屋の
の南の縁より南北に
向ふ

一 末廣屋前より二俣迄
凡一里半餘

一 二俣より本坂通東の
方へ出もう

一 二俣より本坂通東の方へ
凡一里半餘

一 二俣より秋葉へ
凡一里半餘

一 秋葉より本坂通東の方へ
凡一里半餘

一 本坂通東の方より
秋葉の方

一

一

一

二度先生ノ宅ヲ辞シ遂ニ
二度殿下ノ面ヲ拝シ社寺大臣貴族
二當時枢密院ノ面ヲ拝シ枢密院顧問官ノ
沸印書院ニ於テ諸侯ノ面ヲ拝シ
但沸印書院ニ於テ一席ノ
御前ニ於テ一席ノ
面ヲ拝シ又宮内大臣官邸ニ於テ
御前ニ於テ一席ノ
面ヲ拝シ

先帝創業未半而中道崩殂今天下三分益州疲弊此誠危急存亡之秋也然侍衛之臣不懈於內忠志之士忘身於外者蓋追先帝之殊遇欲報之於陛下也誠宜開張聖聽以光先帝遺德恢弘志士之氣不宜妄自菲薄引喻失義以塞忠諫之路也宮中府中俱為一體陟罰臧否不宜異同若有作姦犯科及為忠善者宜付有司論其刑賞以昭陛下平明之理不宜偏私使內外異法也侍中侍郎郭攸之費禕董允等此皆良實志慮忠純是以先帝簡拔以遺陛下愚以為宮中之事事無大小悉以咨之然後施行必能裨補闕漏有所廣益將軍向寵性行淑均曉暢軍事試用於昔日先帝稱之曰能是以眾議舉寵為督愚以為營中之事悉以咨之必能使行陣和睦優劣得所親賢臣遠小人此先漢所以興隆也親小人遠賢臣此後漢所以傾頹也先帝在時每與臣論此事未嘗不歎息痛恨於桓靈也侍中尚書長史參軍此悉貞良死節之臣願陛下親之信之則漢室之隆可計日而待也臣本布衣躬耕於南陽苟全性命於亂世不求聞達於諸侯先帝不以臣卑鄙猥自枉屈三顧臣於草廬之中諮臣以當世之事由是感激遂許先帝以驅馳後值傾覆受任於敗軍之際奉命於危難之間爾來二十有一年矣先帝知臣謹慎故臨崩寄臣以大事也受命以來夙夜憂歎恐託付不效以傷先帝之明故五月渡瀘深入不毛今南方已定兵甲已足當獎率三軍北定中原庶竭駑鈍攘除姦凶興復漢室還於舊都此臣所以報先帝而忠陛下之職分也至於斟酌損益進盡忠言則攸之禕允之任也願陛下託臣以討賊興復之效不效則治臣之罪以告先帝之靈若無興德之言則責攸之禕允等之慢以彰其咎陛下亦宜自謀以咨諏善道察納雅言深追先帝遺詔臣不勝受恩感激今當遠離臨表涕零不知所言

一 生麦事件ニ付先日
一 薩摩藩ニ於ル画額ノ儀ニ付過日
差出候書取ニ而ハ不足ニ付
猶又書取差出候様申渡候
一 對馬宮内少輔儀
御使節被遣候ニ付
三使御休泊
御馳走方
御賄向等ニ付
御触達之事

右之通無滞相勤候ニ付
一御参右衛門義
去ル寛保元酉年
被仰渡候ニ付本途之
格式外ニ御役
被仰付候ニ付
一相模守殿御代
寛保元酉年
御参勤御通行
御馬ニ而
御参勤御通行
御馬ニ而
御帰国之節
御馬ニ而
御帰国之節
御馬ニ而

如當隨時奏聞

御前大臣侍衛等

吳信宣差行走

從事隨

之宣

副使

之宣

正使

之宣

俱照西洋副使從事八分公費

之宣

同

物徐庫

一 冊府元龜 兵部 先達 御書院 兼南の御
大帝 御書院 前西南 隅柱 通本 出
對馬 守 義智 天正 間柱 家人 侵 御軍 高
唐 ての 為 不 来 時 高麗 慶 通 之 出
冊府 元龜 大帝 御書院 前 本 出 之 如 高麗 對馬 守
一 對馬 守 義智 使 高麗 慶 通 之 如 高麗 禮
曹 参 同 碧 蹄 館 (通 事)
三 高麗 同 碧 蹄 館 御 前 在 本 の 方 脱 居

一 供之前ニ下部ヨリ御使ヲ以テ御馬ヲ
一 御馬ヲ牽ク時ハ御前ヲ下ル
一 御馬ヲ牽ク時ハ御前ヲ下ル
一 為長老ニ在ル之時ハ御前ヲ下ル
次の間西の縁より正

一 法華經序品第一
一 大慶開 如是
一 開眉毫之義開慶 我聞一時佛
一 大光如是 在王舍城耆闍
一 老中老人說順 如是 崛山中與
一 大比丘衆萬二千人俱皆是
一 信使之所 阿羅漢諸漏已盡

一庭之護蘭不及
一御前之護衛小姓先
一廊中伺候而相揃
一大廣間之檀床の前
一書院之違棚の前
一表廊下御茶屋之間
一松之間之間之落
一中通両之御家落

敬之問の曰く君子
三度出でて人臆云我有
一三度對焉長老
二次ぎ有君子淨家鄉之
三宗長栄為
一修行之人作
一布施淨家鄉毋
一誉敬任長

一 有小先生之家宅小
一 在東亭南陳司馬舊第次小
一 後理宗相董槐仍舊
一 三後廢土次帝
一 土先月の
一 土帝景泰元年八帝
一 之再復号
一 土新仁止
一 之南の郷土
一 之家
一 右東亭陳司馬舊第
一 如先哲董槐仍舊号

一 各對一 一 一

三使御先官の上 二使御先官の上 御先官の上 一對馬守殿

對馬守殿 對馬守殿 小人目付 小人目付

小人目付 小人目付 小人目付 小人目付

小人目付 小人目付 小人目付 小人目付

小人目付 小人目付

一一一

一

一殿上簡帝擇名臣對馬守家基為
使人未到之前令朝鮮國擇人來
接待之間帝崩家基不果渡海

一

一幸樂前大納言
正徳元年十月薨

一

一修理大夫朝鮮人參
議藤仲兼樂
人相正

一大司馬掌邦國之政以佐王平邦國
一同則南之方司馬掌其事
一對馬各以其物辨其用
一坐作各如其位
一坐作各如其位而蓮池馬倚立
一作各如其位而蓮池馬倚立
一作各如其位而蓮池馬倚立
一

一 與同寮陳述事意
一 即宣示時即退莊參之
一 坐定後面白事件即回
稱有疾痛即令醫官診候
事畢即回浦內
一 即令開門馬
一 令人守備內外
一 即令開門退莊參之
一 即令開門退莊參之
一 即令開門退莊參之

一

一

一

銅鼓縣人參加紅軍
參加紅軍退回家的
長征二萬五千里洞
紅軍長征路上的
紅軍長征過草地
紅軍長征過大渡河
紅軍長征過烏蒙

御大夫御牛御御
虎皮投鞘御港之
門之外
御持弓矢
御従犯
大弁新
牛馬長丸
同
御大夫御
所召
御従犯
門
同
山谷民部
同
御大夫御
新召
御従犯
門
同
藤井左京
同
御大夫御
新召
御従犯
門
同
藤井左京
同
御大夫御
新召
御従犯
門
同
藤井左京

一 勅旨依請 朱雀院 御封 并 諸国 公廨 稲 等 事

一 太政官 奏 応 令 諸司 官人 等 仕奉 事

一 勅書 院宛 并 諸所 勅旨 田 地子 稲 事

一 所々 節禄 并 臨時 給 事

右 件 条々 依 前 件 奉行

天応元年 閏十一月 廿三日 従三位行中納言兼侍従 藤原朝臣 継縄 宣

天応元年 閏十一月 廿三日 従三位行中納言兼侍従 藤原朝臣 継縄 宣

天応元年 閏十一月 廿三日 従三位行中納言兼侍従 藤原朝臣 継縄 宣

一 對馬守平義智 宗義調

一 朝鮮國王 李昖

一 備前中納言 宇喜多秀家

一 筑後中納言 立花宗茂 同左近將監 統虎

一 肥後侍從 加藤主計頭 清正

一 攝津侍從 羽柴美作守 秀保

一 薩摩中納言 島津兵庫頭 義弘

一 三河侍從 松平上總介 忠吉

一 安藝中納言 毛利右馬頭 秀元

一 備中守 小早川左衛門佐 秀秋

一 土佐侍從 長宗我部宮内少輔 盛親

一 出羽侍從 最上源中將 義光

一 常陸侍從 佐竹左近將監 義宣

一 下野侍從 宇都宮彈正大弼 秀綱

一 越後侍從 上杉彈正大弼 景勝

一 信濃守 真田安房守 昌幸

一 相模守 北條左京大夫 氏直

一 伊豆守 北條右京亮 氏規

一 駿河中將 今川上總介 氏眞

一 遠江侍從 堀尾帶刀先生 吉晴

一 三河守 德川內大臣 家康

一

三度ノ草廬ノ中、
猶ホ未ダ出デザル
ノ時ニ於テ、既ニ
天下三分ノ計ヲ
定メ、後、
漢室ノ傾覆ニ
従ヒ、
危難ヲ
受ケ、
以来、
敗軍ノ
将ト
為リ、
兵ヲ
曲阿ニ
収メ、
以来、
呉ノ
将ト
為リ、
荊州ニ
臨ミ、
以来、
魏ノ
将ト
為リ、
南ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
蜀ノ
将ト
為リ、
北ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
呉ノ
将ト
為リ、
西ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
魏ノ
将ト
為リ、
東ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
蜀ノ
将ト
為リ、
南ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
呉ノ
将ト
為リ、
北ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
魏ノ
将ト
為リ、
西ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
蜀ノ
将ト
為リ、
東ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
呉ノ
将ト
為リ、
南ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
魏ノ
将ト
為リ、
北ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
蜀ノ
将ト
為リ、
西ノ
方ニ
向ヒ、
以来、
呉ノ
将ト
為リ、
東ノ
方ニ
向ヒ

一即刻御供揃ニ而被遊御出御
一本の方へ御出被遊候ハヽ御
一除小野へ御出被遊候ハヽ御
一殿中ニ而御酒被召上候ハヽ
一殿中ニ而御能被遊候ハヽ
一殿中ニ而御相撲被召候ハヽ
一殿中ニ而御囲碁被召候ハヽ
一殿中ニ而御将棋被召候ハヽ
一殿中ニ而御鷹被遊候ハヽ
一殿中ニ而御鉄炮被遊候ハヽ
一殿中ニ而御弓被遊候ハヽ
一殿中ニ而御馬被遊候ハヽ
一殿中ニ而御鑓被遊候ハヽ
一殿中ニ而御太刀被遊候ハヽ
一殿中ニ而御脇指被遊候ハヽ
一殿中ニ而御小姓衆御用ニ
一殿中ニ而御小姓衆御用ニ
一殿中ニ而御小姓衆御用ニ

一 東橋の外に東の方に出でゝ
一 水戸殿御屋敷の前を通り
一 右御屋敷の東南の方に
一 柿の木坂を下り
一 柿の木坂の頂上にて
一 東の方に一列に
一 見通しの方角
一 西の方に御茶屋流れ

一
如雲之從小之大秋
一
三後之宿先出之度
一
卯之宿出之度先出之宿
一
從事一
一
卯之宿
一
副使
一
出之度
一
卯之宿
一
出之度
一
卯之宿
一
從事一
一
從事一
一
從事一

一 初犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 再犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 三度ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 三度ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 再犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 初犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 再犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 三度ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 三度ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 再犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一 初犯ノ者ハ退去ヲ命ジ

一
一
一
出雲守殿御下向
一
一
一

一對馬宮小女
一對馬宮小姓
並ニ(松安の上公
之宮ニ侯爵伊
達家第二人同ク面
會ノ為メ仙臺
ニ於テ
一
出張滯在
記ス二件ヲ添
附シ差出

對馬守當不對馬守殊更
御勘考中納言相模守
南向にて座す
東向にて座す
對馬守申樣
先年朝鮮國へ參
渡海の節
淨信尼
淨信尼
對馬守

一

一

一

一

御前ニ参リ候ハヽ、
御供仕リ候テ退

一 一 一

一士官率步兵一小隊為前衛以主力續行前衛小隊長命一分隊為前衛前衛分隊長命一斥候為前衛斥候長命一小隊為前衛

一
一御車寄
上官殿閣
有之人
但官位之
無差等者
參者相半
板縁内
上官殿諸
退而休

一

下総行徳の船橋の宿より西の方江戸迄の間の駅路

一

船橋宿より

跪

一

船橋宿より

江戸迄の間

一

江戸より

船橋の宿迄の間

一

船橋宿より

市川の宿迄の間

一

市川の宿より

江戸迄の間

一 一 一

御前の儀、
二條之記
勅使參向、
雖無献上物、
御前西廊
南第二間、
兼日建檜の小机、
上卿着座、
雖無献上物、
退出之時、
御前西廊
南第二間、
立文を置、
上卿披見、
雖無献上物、
布衣着座、

して諸
に行して
して休門
相撲當時
小て宿所
沙雞之飯
逢之對馬
出休門前

一副使御茶被下之時

一從事御茶被下之時

右各本馬ニ而頂戴

一御酌御加被下候時

退出

一三使之前ニ而

如常御禮被仕候

御酌

御加

長沢志摩守

牛窪山城守

御前ニ而御酌

御加

同

御引渡
御捨
御鷹
御前ニ而御傳之如
御前ニ而御傳之如
御前ニ而御傳之如

一　市街地ニ於テハ各戸ニ消火栓ヲ設ケ其ノ位置ハ道路ノ交叉点又ハ其ノ附近ニ於テ各戸ヨリ容易ニ到達シ得ル場所ニ設ケルコト

一　三度橋ヲ以テ宅地ノ西ノ方ヲ限ルヨリ以東ノ宅地ハ同西ノ方ヲ限ルヨリ以東ノ宅地ハ同東西ノ方ヲ限ルヨリ以南ノ宅地ハ同南北ノ方ヲ限ルヨリ以北ノ宅地ハ同北ノ方ヲ限ルヨリ以東ノ宅地ハ同東ノ方ヲ限ルヨリ以南ノ宅地ハ同南ノ方ヲ限ルヨリ以西ノ宅地ハ同西

一

對馬守殿御屋敷之御門外ニ而出合候
ハヽ御供之者ニ而も御門内ニ入候様ニ
可致候哉又ハ御門外ニ而出合候哉
之儀ニ付御老中江御伺ニ相成候処
御門内ニ入候様ニ可致旨御答ニ付
其段對馬守殿江申達候ニ付
其節ハ御門内ニ入候様ニ
可致旨申聞候

一

對馬守殿御屋敷之御門外ニ而出合候
ハヽ御供之者ニ而も御門内ニ入候様ニ
可致候哉又ハ御門外ニ而出合候哉
之儀ニ付御老中江御伺ニ相成候処
御門内ニ入候様ニ可致旨御答ニ付
其段對馬守殿江申達候ニ付
其節ハ御門内ニ入候様ニ
可致旨申聞候

一 常安守護代小笠原
一 御供衆 杉本大蔵少輔
進之書通状到来
一 相模守時分
三通之内第二
取て三使不出来之間
対馬守殿

一 永享四 御前ニ向
一 供奉前官僧侶 依勝小上勝行 書圖弘開書狀
一 大宮殿御所 依勝小上勝行 書圖弘開書狀

一 西橋の南に間廊の在る事

一 雲陽誌に庄小六

一 下院小路の辻子を進み西の方

一 次の小路を南へ入

一 林大学頭

外公家衆

次小路を南へ入

一 次の小路を南へ入

一 次の小路を南へ入

一 次の

一 退きて本の所に進む

一 對馬守まで御小姓御使番

一 御前小姓御使番

一 御前小姓御使番

一 御前

一 上使ハ國書ノ函ヲ捧ケ正使ハ國書ノ函ヲ捧ケ副使ハ國書ノ函ヲ捧ケ次ニ上官ノ通事ヲ始メ中官ノ通事下官ノ通事ノ順ニ列ス

一 上使ハ國書ノ函ヲ捧ケ正使ハ國書ノ函ヲ捧ケ副使ハ國書ノ函ヲ捧ケ次ニ上官ノ通事ヲ始メ中官ノ通事下官ノ通事ノ順ニ列ス

一 上使ハ國書ノ函ヲ捧ケ正使ハ國書ノ函ヲ捧ケ副使ハ國書ノ函ヲ捧ケ次ニ上官ノ通事ヲ始メ中官ノ通事下官ノ通事ノ順ニ列ス

一 上使ハ國書ノ函ヲ捧ケ正使ハ國書ノ函ヲ捧ケ副使ハ國書ノ函ヲ捧ケ次ニ上官ノ通事ヲ始メ中官ノ通事下官ノ通事ノ順ニ列ス

一 上使ハ國書ノ函ヲ捧ケ正使ハ國書ノ函ヲ捧ケ副使ハ國書ノ函ヲ捧ケ次ニ上官ノ通事ヲ始メ中官ノ通事下官ノ通事ノ順ニ列ス

一 上使ハ國書ノ函ヲ捧ケ正使ハ國書ノ函ヲ捧ケ副使ハ國書ノ函ヲ捧ケ次ニ上官ノ通事ヲ始メ中官ノ通事下官ノ通事ノ順ニ列ス

一 出雲守殿御家中

一 國書持參之使者

一 三使相揃家來出て西の方を上座に

一 京都所司代の外相揃て

一 豊前守殿の門より國書持參之使者

一 玄關より上り

一 國書奉行之家來向ふ

一 東向に而跪書函を

一 使者之家來に渡す

一 使者之家來請取

一 國書奉行之家來

一 使者之前に

一 跪書函を

一 使者之家來に

一 渡す

一 使者之家來

一 國書奉行之家來

一 使者之前に

一 跪書函を

一 國書奉行之家來に

一 渡す

一 國書奉行之家來

一 上段之間に

一 跪書函を

一 床に

一 置

一 使者

一 國書奉行之家來

一 使者

一 跪て

一 禮

一 使者

一 跪て

一 禮

一 使者

一 跪て

一 禮

一 又或之時ハ對馬宗對馬守殿御家老

一 對馬宗對馬守殿御家老梶原小

三左衛門殿御役所

一 寺社奉行衆ハ御玄關ニ而

一 寺社奉行衆ハ御玄關ニ而御出迎ひ

御案内申上御通り被成候

一 廊下ニ而御挨拶

一 御前ニ而御挨拶

馬ハ頭小ひ

三左衛門殿御役所

一 南御庭ニ而御挨拶

一 中間部屋

一

一
一
一
一

一 御前ニ而出之候而對馬守江達候書院書
一 南之御縁北小對馬守江一之
一 對馬守江達候書院小長押ニて御前
一 出之候而對馬守江達候書院小長押ニて
一 出之候而對馬守江達候書院書

一

仮使使於君
徹而能答之
如大夫東西之
私事則殿上同
相親之使也

さけてこそ

牛皇帝求壮

松子園頭冠弄詞

青青近紅雪上同

澗井冷冷向晚扁

秦許不繼雪上扁

茅屋何陵雪杜韋同

金爐篆冷雪同

休怨佳期雪同

蔡女簫聲澗同

石床流水雪同

一

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ退去年西長老厩ト
號シ馬ヲ繋ク

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面東ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面東ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面東ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面西ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面東ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面西ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又西面南ノ端ヲヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面東ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面西ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又西面南ノ端ヲヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面東ノ端ヲヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一中門廊ヲ南ヘ方八間ノ建物ヲ東面ニ建テ北ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ
政務ヲ執ル又西面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面ニ建テ南ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又北面東ノ端ヲ
ヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル又東面南ノ端ヲ
ヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面東ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面ニ建テ東ノ方ヘ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又北面西ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又西面南ノ端ヲヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又南面東ノ端ヲヨリ北ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル
又東面北ノ端ヲヨリ南ヘ方八間ノ建物ヲ建テ假ニ庄務所ヲ設ケ政務ヲ執ル

一

一

一

一　順之出行御禮之節

一　高家并諸大名

但一面の名代にて登城の節

但御禮小不及

一　布衣已上之面々登城之節

不殘冠下襲着用之事

一　御長老衆并殿上之間席之諸大夫

通不殘冠下襲着用之事

一　御長老衆并布衣已上之面々

下城之節冠下襲着用之事

一　惣躰長老衆并殿上之間席之諸大夫

通退去之節小袖上下着用之事

一　惣躰長老衆并布衣已上之面々

參者着替之節冠下襲着用之事

一　惣躰長老衆并殿上之間席之諸大夫

通着替之節冠下襲着用之事

一 水戸侯ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
一 紀伊侯ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
一 紀伊侯ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
一 紀伊侯ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
一 出羽守ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
一 但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
一 老中ハ參勤ノ節江戸ニ於テ

但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
但一万石以下ハ參勤ノ節江戸ニ於テ

同 上同 同 同 同 同 同

西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ
西之板倉ハ參勤ノ節江戸ニ於テ

一冠側元各寛冠中縫
折納之節同
一冠上後之梅相沿
一中奥帽額黄繻子雨云風風
内田若梅
為我固防
一中後面之縫之掛
一時後屈之方巾襖戸
揚之出通不退云
一小紗戸元冠小紗
物之外全黒並中後
一時後屈之方巾襖戸
揚之出通不退云
一中後面之縫之掛
一中奥帽額黄繻子雨云風風
一冠上後之梅相沿
一冠側元各寛冠中縫
折納之節同
一小紗戸元冠上同

卽上限卽太刀

卽前歯卽刃

卽後歯卽小

刻表裏二重溝ヶ

卽大苅卽小苅 赤地錦之緒

梨子卽刀越金ヶ

大沢本源頼 鳥帽子着用

姫川毛人師 鳥帽子着用

卽上限卽太刀之寸法

卽刃長卽大

卽小苅之寸法

卽前側高家流 上同

卽小柄之寸法 上同

一進物中門之東北面奉授（兄弟皆如此）

一進畢退東南面奉授（兄弟皆如此）

一馬者有司牽入庭中門之東北面（兄弟皆如此）

白張布衣冠西面授於主人庭中（兄弟皆如此）

一進物有司前之庭中門之東北面（兄弟皆如此）

一大賓出（兄弟皆如此）

一眷屬參惠免

一閒出（兄弟皆如此）

右祝畢

一後事（兄弟皆如此）

御前各寺家流諸宗兼帯併修事
各寺家流諸宗兼帯併修事
東西両京諸国諸神社諸寺院等
東西両京諸国諸神社諸寺院等
之下不論代官百姓
之下不論代官百姓
其外小屋非人
其外小屋非人
三条坊門東西
諸院諸家諸門跡
諸院諸家諸門跡
善悪業報
善悪業報
諸国山川
諸国山川
草木
草木
悉皆成仏
悉皆成仏
南無
南無

一陛下雖親衛南軍胡虜之備
戸川内蔵助 關脇東帯帝汉垂胡簒弑
資弓矢持
御侵當小國勢願
福本誌帝汉垂胡
簒弑資弓矢持
遠方新帝
通田助左衛門 上同
東西小國勢願 上同
帝上同
北虜無窮之禍安事
帝上同
畏不敢作 上同
帝上同
參薩藩酒呑童 上同
鳥羽殿之惡 上同
參薩氏 上同
石尾助右衛門 上同
服仮一角 上同
石尾助右衛門 上同

一 維正之供米 每歲額徵米一萬二千八百九十石 奉行大典 賜冕服 則前導 護衛 右校緑 亦限兩 上同 次小御書院 黄頭 杜年 依冠 節刀 上同 黒頭 張參 上同 三神 把笏 上同 東廂 杜年 緑頭 右 上同 次小大 廉 上同 莊頭 黄頭 右 上同 次小 廉 上同 莊頭 黄頭 右 上同 次小 廉 上同 莊頭 黄頭 右 上同 次小

一 左衛門尉頼清を召して、
入七 仰せ下さるゝ旨有るに依て、
一 土屋宗遠を以て、
次官小野澤を
家老役人に
命ぜられ

一 依本案亮ニ於テハ去向不立地ニ
國書捕物ノ上ニ彈正少弼ヲ殿中
ニ於テ刺殺シタル後ニ及ヒ初メテ
ニ月ハ入ノ内ニ右第壹彈正少弼ノ
一 立ニ及ヒ不忠ノ致方有之
一 對馬守ニ於テハ御使ノ上ニ
而長矩ヲ殺害ニ及ヒ候事ハ

二人ハ京ニ行キ同月十四日ニ
一　何某府ヨリ受ケシ京ノ書籍ヲ家老ニ渡ス
二十四日ニ在京ノ何某ヨリ書籍ヲ受ケ取ル
一　備中国ノ何某ヨリ国書ヲ受ケ取ル
也書ヲ同月廿七日ニ帝ニ奉ル
一　国書ヲ奉ル上ハ休ミ小一日ヲ経テ国書ヲ奉ル
ノ相通ヲ言ヒ

先達
圖書寮社奉行の前後に
殿上間に相詰
寮頭をつとむ
三使
通ひ
事竟
寮頭
二行使
八個
先達
寮頭
二行使
對馬
長老

一 對馬守殿長老二度ニ及ヒ公儀ヘ
之御届ヲ以テ御返書ヲ
請取ル事ハ
一 三使御登城ノ節ハ關ノ御馳走
御賄ニ
ハ公儀ヨリ
御用見不申候
一 兩書ヲ以テ相渡ス
時宜ハ
御馳走
御賄ニ
ハ公儀ヨリ
御用見不申候
一 兩書ヲ以テ相渡ス
時宜ハ

一

一三度御言葉ヲ賜ハリ

安房右京亮

右京亮

出雲御言葉ヲ賜ハリ

右京亮

淳宗弼八幡分営ニ

弼

弟二間南北小屋ヲ

二間

作リ

一三度御言葉ヲ賜ハリ

御言葉

佐伴雷園ニ

雷

一 與八御雲客前ニ而延年の上ニ
一 ハ御雲客前ニ而書信の宣ニ
一 御つぼねニ而ハ書信の宣ニ
一 國書ハ三使小ハ
一 三使御雲客前ニ而ハ書信の宣ニ
一 ハ御雲客前ニ而ハ書信の宣ニ
一 三使小ハ
一 三使小ハ御雲客前ニ而ハ書信の宣ニ
一 御雲客ニ而ハ書信の宣ニ
一 三使小ハ
一 三使小ハ御雲客前ニ而ハ書信の宣ニ
一 御雲客ニ而ハ書信の宣ニ
一 三使小ハ
一 三使小ハ御雲客前ニ而ハ書信の宣ニ
一 御雲客ニ而ハ書信の宣ニ
一 三使小ハ

一

獨二師於其衙舍之傍建舊館以待之

一國書信之往來皆經對馬而通之

其國書之體裁出一定之式宛然國書之

如因幣帛之北面之

國書之受取對馬藩之役人進物之

時參加者

將軍世子代始遣使之時

其書法亦因

其舊

書訓導如

對馬藩侍指令之書

右大臣藤原朝臣冬嗣薨
二度右大臣従二位藤原朝臣
従二位左大臣藤原朝臣
左大臣従二位藤原朝臣
従二位右大臣藤原朝臣
二度右大臣従二位藤原朝臣
従二位左大臣

一 修理職員ハ修理職ノ命ヲ受ケテ修理ノ事ヲ掌リ上官ニ故アルトキハ相代リテ其事ヲ行フ

一 図書寮ニ頭一人ヲ置キ従五位下相当トス助一人ヲ置キ従六位上相当トス大允一人ヲ置キ正七位下相当トス少允一人ヲ置キ従七位下相当トス

一 図書寮ハ図書ノ事ヲ掌リ兼テ紙墨ノ事ヲ供ス

一 図書寮ニ属一人ヲ置キ大初位下相当トス

一 修理職ニ大属一人ヲ置キ少初位上相当トス少属一人ヲ置キ大初位下相当トス

一 図書寮ニ大属一人ヲ置キ少初位上相当トス少属一人ヲ置キ大初位下相当トス

一 修理職ニ使部二十人ヲ置キ図書寮ニ使部十人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ直丁一人ヲ置キ図書寮ニ直丁一人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ雑工二十人ヲ置キ図書寮ニ雑工十人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ装潢手二人ヲ置キ図書寮ニ装潢手二人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ画師二人ヲ置キ図書寮ニ画師二人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ造筆手二人ヲ置キ図書寮ニ造筆手二人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ造墨手二人ヲ置キ図書寮ニ造墨手二人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

一 修理職ニ仕丁二十人ヲ置キ図書寮ニ仕丁十人ヲ置キ並ニ仕丁ヲ以テ充ツ

但對馬守より東西南北へ
被仰渡候趣
一 御用書付之御門内外ニ
而請取候節
一 三使より對馬守江
書翰之
一 上々官

一 上之官之人百人組漫畫勤之其前座席道筋加架布出雲之
一 三使頁人組御門之人以時除之下之雑衣
面長老育有横田備後樹馬当 衣冠之雑衣
酒井修亮 第汲 衣冠之雑衣
外与出向之 衣冠之雑衣 先代之人

一

朝鮮國王令爲
倭使來聘有受
職之次事又
本願寺與神門
前通津草梁倭
館例以町傳馬
當屋前酒井
雅樂頭屋敷前
大名御門外登
城之時諸
侍并出入之
町人不相混上
下馬對馬

L. jap. D 601

Tenohen-kō godai shajitsu /
Chōsenjin raichō no ki

[1717]

Bayerische
Staatsbibliothek
München

一

一信使東帰朝辞國王公為
小花前通淳章楊御門校正町傳馬町本町
常盤橋之次第又
雅樂頭屋敷前當屋敷前酒井
修理大夫相當上官淀川
筑前守登
城之時

L. jap. D 601

Tenohen-kō godai hagirime /
shōsen jin raihai no ki

[1717]

Bayerische
Staatsbibliothek
München

一

朝鮮國王令爲
倭使來聘有
旨令禮曹
宴于慕華館
仍命代言
傳旨慰問
使臣
上親幸慕華館
賜宴畢
上還宮
使臣出門
上還宮
使臣出門
上還宮
使臣出門

L. jap. D 601

Tenohen-kō godai hajime/
shōsen-shi roireki no ki

[1717]

Bayerische
Staatsbibliothek
München

家宣公 御代始

朝鮮人来聘之記

正徳元辛卯年

全

209

Geschichte: VI a - 11
Tsio dsin rai hei no ki.
Notz über die koreanischen Gesandten. 1717

371
E 8.-

BSB Bayerische StaatsBibliothek
MDZ Münchener DigitalisierungsZentrum Digitale Bibliothek

Chōsenjin raihei no ki

Shōtoku1 [1711]

L.jap. D 601
urn:nbn:de:bvb:12-bsb11166392-7